

海外の話題

シンガポールの精神

農林中央金庫 シンガポール支店長 杉本 真

少し前の話題であるが、シンガポールの建国記念日における首相演説について触れたい。毎年8月8日に首相が国民に対して、国家の将来に向けての取組を説明するものである。

シンガポールはかつて開発独裁と言われつつも、喫緊の課題に対処するだけでなく、長期的な戦略を持って、国家の発展に向けた布石を打って来た。日本を大きく超える一人当たりGDPは先人たちの先見の明の賜物であろう。金庫がオフィスを構えるマリーナベイ周辺もこの10年で開発されてきた地域である。最近では日本人観光客にも人気の観光スポットとして有名なマリーナベイサンズも10年前には存在していなかった。当地の発展のスピードは依然目覚ましいものがある。

リーシェンロン首相は、そのマリーナベイにあるガーデンバイザベイに立ち、3つの課題を国民に訴えている。

1点目は、就学前教育の充実である。後日の国会演説において詳細が述べられているが、言語習得は生後8ヶ月から始まり、社会的能力も幼児から獲得されるスキルとされている。教師の質を高めるだけでなく就学前児童の保育施設も大幅に増やすという。これは、教育熱心な国柄が反映されているだけではない。共働き世帯が多いシンガポールにとって、こうした優れた就学前施設の充実は女性の就業率を維持し、さらには出生率の上昇に繋げる狙いがある。

2点目は、糖尿病対策である。意外なことであるが、健康志向の強いシンガポールでも60歳以上の国民の三分の一が糖尿病にかかっているという。健康的とされる日本食の人気の益々上昇するという期待もあるが、国民一人一人が自らの健康に責任を持つべきであるというリー首相のコメントはシンガポールらしいと言える。シンガポールでは平均寿命は日本と同様80歳を超えている。リー首相が力点を置いているのは単に寿命を延ばすことではない。いかに健康な状態で過ごせる時間を延ばすかにある。糖尿病などにより介護を必要とする期間が60歳前後で始まれば、周囲は20年間の介護を要する。この要介護期間を短縮することで社会的な費用を抑制することが狙いである。

3点目は、スマート国家の建設である。紙面の関係で多くは述べないが、中国ではWeChat Payなど携帯端末を利用した決済手段が発達し、キャッシュレス化、カードレス化が急速に進んでいる。また治安の面では防犯カメラの充実による治安改善などが期待される。コンパクトシティを標榜するシンガポールではこれらIT技術の恩恵を最も享受しやすいと思われる。

リー首相はこれら将来の課題に多くの時間を割き、喫緊のテロ対策などについてはほとんど触れていない（無論軽視している訳ではない）。国父リークアンユーの言葉「政府として誰に対して責務を負っているか？それは現在の国民でも、無論過去の国民でもない。将来の国民である。」を引用して、最後に“Always looking ahead, planning ahead, and staying ahead.”これこそがシンガポールの精神であると締めくくっている。金融機関のみならず組織の運営に当たる者全てに通じる言葉であると思う。